

鷹栖町農耕地土壤図(1/5万)

(地力保全基本調査、上川中部地域)

1994年 3 月

北海道 上川 支庁
北海道立上川農業試験場



本調査は、鷹栖町が昭和56年から3ヶ年をかけて実施した町内の
土壌調査を基に、その後行われた道営土地改良事業土壌調査を加えて、
地力保全基本調査の様式により編集発行した。

(道立上川農業試験場 土壌肥料科)

目 次

土 壤 統 一 覧	1
各統の説明	
1. 北 斗 統	3
2. 北 成 統	5
3. 嵐 山 統	7
4. 鷹 栖 南 統	9
5. 知 遠 別 統	11
6. 北 野 西 統	13
7. 北 野 統	15
8. 鷹 栖 中 央	17
9. 鷹 栖 統	19
10. 藤 野 統	21

土壤統および土壤区一覧

土壤統一覧（水田）

統 番 号	地図上 記号・ 代表No	土 壤 統 名 (分布面積)	色 層 序	腐 植 層 序	簡 略 分 級 式	礫層・砂礫層 礫を混在する 砂層	酸 化 沈 積 物
1	Ho 19	北 斗 (540)	Y / Y	表層腐植層 なし	IIIpII tfn	な し	あ り
2	Hos 23	北 成 (544)	Y / Y	表層腐植層 なし	IIIp II tfn	な し	あ り
3	AR 6-7	嵐 山 (252)	YR / G	表層腐植層	IIIr II tdplf	な し (あり)	あ り
4	Tas 9	鷹 栖 南 (596)	Y / Y	表層腐植層	IIIpII rf	な し	あ り
5	Ti 18	知 遠 別 (203)	Y / YR	表層腐植層	IIIpII trf	な し	あ り
6	KiW 8	北 野 西 (91)	Y / Y	表層腐植層 なし	IIIpII tn	な し	あ り
7	Ki 2	北 野 (905)	Y / G	表層腐植層	IIIpII trf	な し	あ り
8	TaC 13	鷹 栖 中 央 (209)	Y / Y	表層腐植層	IIIpII rf	な し	あ り
9	Ta 5	鷹 栖 (925)	Y / G	表層腐植層	IIIpII rf	な し	あ り
10	Fu 335-11	藤 野 (508)	Y / YR	表層多腐植 層	IIIlrIIp	な し	あ り

土 性		泥炭層 黒泥層 の有無	グライ層	堆積様式	母 材	土 壤 型	
表 層	次 層					土 壤 統 群 名	全国土壌統
強粘質	強粘質	なし	なし	洪 積	非固結 水成岩	細粒灰色台地土	小 向 07A03
粘質	粘質	なし	なし	洪 積	非固結 水成岩	細粒灰色台地土	江 迎 07A04
粘質	壤質	なし	15cm以下	洪 積	非固結 水成岩	礫質グライ台地 土	蓬 平 08C10
強粘質	強粘質	なし	なし	水 積 (湖成)	非固結 水成岩	細粒灰色低地土 (構造なし)	東 和 13A01
強粘質	強粘質	なし	なし	水 積 (河成)	非固結 水成岩	細粒灰色低地土 (構造あり)	四 倉 13A02
強粘質	粘質	なし	なし	水 積 (湖成)	非固結 水成岩	中粗粒灰色低地 土	加 茂 13B07
強粘質	強粘質	なし	13cm以下	水 積	非固結 水成岩	細粒強グライ土	田 川 14A02
強粘質	強粘質	なし	60cm以下	水 積 (湖成)	非固結 水成岩	細粒グライ土	保 倉 14D15
強粘質	強粘質	65cm 以下	45cm以下	水積/集積	非固水 /ヨシ	グライ土 (層有機質)	米 里 14G28
強粘質	泥炭	24cm 以下	なし	集 積	ヨ シ	低位泥炭土	長 富 16A01

1. 北 斗 統

A-1 土壤統の特徴

本統は鷹栖町の丘陵部と低地の境にみられる台地上に分布する細粒質で強粘性を示す細粒灰色台地土である。表層の腐植含量は少くその厚さも薄い。酸性が強く生産力は劣っている。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.19 水田) 加地良和宅地先

H ₀ (19)	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
11 16	灰色 2.5Y5/24	LiC	小粒 富む	18	大	糸根 有り	半湿	中	細粒灰色台地土
30	黄褐 2.5Y6/4	LiC	連結 状	20	大	雲状 富む	湿	小	
	灰色 2.5Y8/2	LiC	大塊 あり	20	大		湿	小	

(G 60)

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 11	2.6	17.9	10.8	32.6	38.8	LiC	2.66	144.9	
2	11 ~ 30	2.8	17.6	10.3	32.8	39.2	LiC	2.60	133.1	
3	30 ~	2.7	9.7	11.1	41.8	37.5	LiC	2.66	127.3	

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1	43.3	50.2	6.5	1.63	0.13	13.0	2.8	5.4	4.1		833
2	51.1	47.1	1.8	1.43	0.22	7.0	2.5	5.1	3.9		813
3	64.7	35.0	0.3	0.27	0.03	9.0	0.5	5.2	3.4		604

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		遊離酸化鉄 %	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイク	トルカゲ法		
1	13.7	90	35	18	39.4	64.0				
2	16.3	85	30	11	28.8	40.0				
3	14.4	99	67	10	48.6	5.0				

A-4 他の土壌統との関係

同じ灰色台地土群に北成統があるが、本統より土性が粗く、中粗粒灰色台地土になる。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：洪積

A-6 地形：丘陵地のすそ及び台地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕土の土性	(表土の粘着性)	(表土の風乾度の硬さ)	湛水透水性	(表土の風乾度の硬さ)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(保湿度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(苦土)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量元素)	酸害性	障害性	(有害物質の有無)	災害性	(物理的障害性)	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)		
級	t	d	g	p				l		r				w				f			n																
稲畑	III	II	I	I	III	3	3	3	I	1	1	I	2	1	1	-	-	-	II	2	1	2	II	3	1	1	1	2	2	1	1	I	1	1	I	1	1
	IIIpII tfn																																				

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

全層にわたって土性が細粒で粘着性が強い。透排水性が悪いのでモミガラ暗渠、心土破碎による排水改良が不可欠である。

堆肥、緑肥のすきこみによる土壌の粒子化が求められる。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

2. 北成統

A-1 土壤統の特徴

台地上に分布する中粗粒質の灰色台地土である。作土は薄く腐植含量は少ない。
作土下はち密で硬く透水性は小さい。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.23 水田) 由良正夫宅地先

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
<p style="font-size: small;">H o S (23) 15 22 x x (G 60)</p>	灰色 2.5Y6/2	CL	粒状 含む 無構 造	15	中	糸根 あり 膜状 あり	半湿	中	中粗粒灰色台地土
	灰色 2.5Y5/1	CL		20	中		湿	小	
	黄褐 2.5Y6/6	CL		22	中	雲状 含む	湿	小	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 15	2.4	26.4	11.3	31.5	30.8	LiC			

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				1.51	0.10	15.0	2.6	5.3	4.0		751

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		遊離酸化鉄 %	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイク	トルカ法		
1	12.0	91	24	14	39.2	45.0				

A-4 他の土壤統との関係

灰色台地土に分類される統に北斗統がある。どちらも台地上に分布しているが、北斗統の方が土性が細粒である。しかし、両統の境界は明確でない。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：洪積

A-6 地形：低地から丘陵地に続く台地

B-1 簡略分級式

土壤生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕土の土性	(表土の粘性)	(表土の風乾度の硬さ)	湛水透過水性	(作土下50cmの土性)	(//の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(//苦土//)	(//カリ//)	(有効態リン酸//)	(//窒素//)	(//珪酸//)	(微量要素)	(微酸性)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)															
級	t	d	g	p				l		r				w					f			n																														
稲畑	III	II	I	I	III	3	3	2	I	1	1	I	1	1	1	-	-	-	II	2	1	2	II	2	2	2	1	2	2	1	1	I	1	1	I	1	1	1														
	IIIpII tfn																																																			

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

細粒灰色台地土の北斗統と同様、排水改良が不可欠である。作土下のち密度が高いので心土破碎を行うこと。特に転換畑では深耕、心土改良耕が必要である。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

3. 嵐山統

A-1 土壌統の特徴

北野南部の嵐山につながる台地土に分布する。礫質グライ台地土である。扇状堆積であるため半角礫を含む。作土下からグライ層となっている。腐植含量は少なく表土も浅く酸性を呈し生産力は低い。

A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.6-7 水田) 山崎久夫宅地先

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
AR (6-7)	黄褐 10YR2/3	CL	粒質	15	中	糸根	湿	小	礫質強グライ台地土
15	青灰 7.5GY4/1	L	大塊 あり	18	中	雲状 富む	湿	小	半角未風化礫に富む グライ層
65	青灰 7.5GY6/1	C	なし	15	大	なし	湿	小	グライ層
(D31)									

A-3 代表土壌断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 15	6.5								

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				2.61	0.34	8.0	4.5	5.6			1,000

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		遊離酸化鉄 %	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	フレイ2	トルク法		
1	16.3	188	42	29	58.0	34.0			20.8	

A-4 他の土壌統との関係

台地に分布する統に灰色台地土（北斗統、北成統）があるが、本統より地下水の影響を受けていないのでグライ層はみられない。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：洪積（扇状）

A-6 地形：丘陵につながる台地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の土性	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾度の硬さ)	湛水透水性	(作上下50cmの土性)	酸化還元性	(の最高ち密度)	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	土の乾湿	(グライ化度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量要素)	酸害性	(有害物質の有無)	障害性	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)	
級	t	d	g	p					l		r			w		f		n		i		a													
稲畑	III	II	I	I	II	2	2	1	II	2	1	III	2	3	3	-	-	-	I	2	2	II	2	2	2	2	1	1	1	1	I	1	1	1	1
	IIIrIItdplf																																		

B-2 利用状況：

B-3 農業上の留意事項

土層中の地下水位を低下させるため山際に承水路の設置、モミガラ暗渠、心土破碎等、土層全体の排水と地表水の排水に勉める必要がある。転換畑では、深耕、心土肥培耕が必要である。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

4. 鷹栖南統

A-1 土壤統の特徴

町内の低地部に分布する灰色低地土である。表層の腐植含量は高い。土性は細粒質で粘着性に富む。有効土層は深く表土も厚く肥沃であり、排水対策を行うと生産力の高い土壤である

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.9 水田) 松平忠義宅地先

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
T a S (9)	灰色 2.5Y4/1	CL	粒質	12	大	糸根	湿	小	細粒灰色低地土
18	灰色 2.5Y3/1	CL	なし	18	中	膜状	湿	小	
32	灰色 2.5Y8/2	LiC	大塊弱	22	大	管状	湿	小	
50	灰色 2.5Y7/1	LiC	大塊弱	20	大	管状	湿	小	
(E 40)									

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 18		5.9	20.3	39.9	33.9	LiC	2.60	70.3	
2	18 ~ 32		1.4	14.7	43.1	40.8	LiC	2.58	72.8	
3	32 ~ 50		2.6	10.5	40.1	46.8	HC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				5.08	0.32	16.0	8.8	5.5	4.2	3.6	1,557
2								5.4	4.2	7.1	2,612
3								4.7	4.2	20.1	1,129

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リ酸 (mg/100g)		遊離酸化鉄 %	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルカ法		
1	44.5	277	60	46	31.0		102.0		0.38	5.2
2	67.4	291	64	18	20.6		25.0		0.41	
3	23.5	47	16	14	11.9		10.0		0.43	

A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ灰色低地土土壌群に分類される。土壌統に知遠別統、北野西統がある。三者間の差異は、表層の腐植含量と土壌断面に見られる斑紋の形態、量で区別されるもので農業生産上は同一の扱いで差しつかえない。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積（湖成）

A-6 地形：低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕(表土の粘性)	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	湛水透水性	(表上の風乾度の硬さ)	酸(易分解性有機物含量)	酸化還元性	(の最高ち密度)	(作上下50cmの土性)	土地の乾湿	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	養分の豊富	(土層の塩基状態)	(置換性石灰含量)	(苦土)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量要素)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
t	d	g	p					l		r				w					f			n										i		a			
III	I	I	I	III	3	3	2	I	1	1	II	2	3	-	-	-	-	-	II	2	2	2	II	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1
IIIpIIrf																																					

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

全層にわたり土性が細粒質で粘着性が強い。排水対策も行いながら堆厩肥

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

5. 知遠別統

A-1 土壤統の特徴

本統はオサラッペ川上流部の低地に分布する細粒灰色低地土である。下層土の土壤構造は比較的発達している。したがって、透水性も中である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.18 水田) 中口峰信宅地先

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
12	灰色	LiC	粒質	14	大	糸根	湿	小	細粒灰色低地土
23	灰色 2.5Y6/2	SiC	なし	20	大	糸根 富む	湿	小	
50	灰褐 10YR5/2	SiC	大塊 含む	24	大	雲状 あり	湿	小	
	黄褐 10YR7/3	SiC	大塊 あり	22	大	雲状 あり	湿	小	

Ti
(18)

(E 41)

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 12	3.8	6.9	13.6	43.9	35.6	LiC	2.57	91.8	
2	12 ~ 23	3.6	6.0	10.4	45.6	38.6	SiC	2.59	114.0	
3	23 ~ 50	3.1	1.7	7.1	49.3	42.0	SiC	2.67	109.0	

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				2.99	0.27	11.0	5.2	5.4	4.0		1,144
2				2.59	0.27	9.0	4.5	5.7	4.3		1,085
3				1.88	0.22	8.0	3.3	5.8	4.2		1,252

層位	塩基交換 容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)	遊離 酸化 鉄 %	有効態 珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基			
1	18.7	201	36	16	50.3	167.0			
2	23.2	299	40	17	56.5	25.0			
3	21.2	295	33	20	59.0	12.0			

A-4 他の土壌統との関係

灰色低地土群には、本統の外に鷹栖南統、北野西統があるが三者間の差異はあまりない。鷹栖南統は本統より地下水の影響が強く構造の発達も弱い。北野西統は土性が中粗粒質になる。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積（河成）

A-6 地形：広い沢の低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の土性	（表土の粘着性）	（表土の風乾度の硬さ）	灌水透水性	（作土下50cmの土性）	（//の最高ち密度）	酸化還元性	（易分解性有機物含量）	（遊離酸化鉄含量）	（グライ化度）	土地の乾湿	（透水性）	（保水性）	（湿度）	自然肥沃度	（保肥力）	（固定力）	養分の豊富	（置換性石灰含量）	（有効態リン酸）	（窒素）	（珪酸）	（微量要素）	（酸度）	（有害物質の有無）	（物理的障害性）	（増冠水の危険度）	（地滑りの危険度）	
t	d	g	p	l	r	w	f	n	i	a																							
III	II	I	I	III	3	3	2	I	I	I	II	2	2	1	-	-	-	II	1	2	2	I	1	1	1	1	1	1	I	1	1	1	1
IIIpIItrf																																	

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

土壌断面下部の透水性は悪くはないが、表層部の透水性は小さいので心土破碎による表面水排除を行うこと。暗渠排水を完備すること。山地からの伏流水を遮断するための明渠を設置すること。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

6. 北野西統

A-1 土壤統の特徴

本統は台地に近い低地部に分布する中粗粒質の低地土である。断面形態は灰色台地土に類似している。表層の腐植含量は少ない。下層部は灰色で構造の発達は弱く緻密である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.8 水田) 東出貞夫宅地先

KiW (8)		土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
14	×	灰色 2.5Y4/2	LiC	粒質	15	大	糸根	湿	小	中粗粒灰色低地土
31	×	黄褐 2.5Y4/3	SCL	無構造	25	大	膜状 富む	湿	小	
	×	灰色 2.5Y7/2	CL	大塊 あり	20	大	雲状 あり	湿	小	

(E41)

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 14	2.6	8.0	29.0	30.6	32.4	LiC	2.65	103.2	
2	14 ~ 31	1.3	55.1	12.6	67.7	15.0	SCL	2.74	154.1	

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				2.71	0.22	13.0	4.7	5.0	4.0	7.9	1,110
2								5.0	4.0	7.1	930

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		遊離酸化鉄 %	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイク	トルガ法		
1	23.3	134	42	29	32.2		16.0		0.74	48.0
2	11.6	56	23	15	29.3		3.0		0.69	

A-4 他の土壌統との関係

灰色低地土群には本統の他に鷹栖南統と知遠別統がある。下層の土性が細粒質であること。地下水の影響が若干強い。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積（河成）

A-6 地形：台地に隣接した低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕(表土の粘性)	表土の粘着性	表土の風乾性の硬さ	表土の透水性	水分(作土下50cmの土性)	酸(易分解性有機物含量)	遊離酸化鉄含量	土(グライ化度)	土(透水性)	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分(土層の塩基状態)	置換性石灰含量	苦土	(有効態リン酸)	窒素	珪酸	微量元素	酸化鉄	障害性	物理的障害性	災害(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)			
t	d	g	p																												
III	II	I	I	III	3	3	2	I	I	I	I	I	-	-	-	I	2	1	1	II	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1
稲畑																															
稲 IIIpIItn																															

B-2 利用状況：

B-3 農業上の留意事項

腐植含量が少ないので有機物の施用につとめること。10土の緻密で根の伸長をさまたげるので、表面水排除を兼ねて、心土破碎を行うこと。暗渠の完備が求められる。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

7. 北野統

A-1 土壤統の特徴

オサラッペ川下流部と町北部の小沢の低地部に分布する排水不良な沖積土壌である。作土直下からグライ層が出現する。細粒強グライ土である。土性は全層にわたって細粒質で粘着性が強い。湿性であるため酸性を呈する。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No. 2 水田) 北沢郁夫宅地先

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
Ki (2)	黒色 2.5GY2/1	HC	粒質	12	中	糸根	湿	中	細粒グライ土
13 23	黒色 2.5GY2/1	HC	なし	17	大	膜状	湿	小	
62	灰色 2.5Y4/2	LiC	大塊 弱	15	大	雲状 含む	湿	小	グライ層
(D31)	青灰 2.5GY5/1	HC	なし	12	大	なし	潤	小	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 13	7.3	5.2	11.2	15.7	67.9	HC	255.00	77.5	
2	13 ~ 28	4.4	3.7	8.7	14.0	73.6	HC	243.00	75.6	
3	28 ~ 62	6.0	0.2	2.4	7.1	90.3	HC	251.00	76.6	

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				51.4	0.38	13.0	8.9	5.3	4.4	3.8	1,170
2								5.2	4.4	4.6	1,610
3								4.6	3.8	23.4	2,080

層位	塩基交換 容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		遊離 酸化 鉄 %	有効態 珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルガ法		
1	44.4	388	82	49	42.6		19.0		0.41	10.8
2	40.4	349	79	27	41.8		15.0		0.35	
3	38.9	107	37	31	16.2		4.0		0.48	

A-4 他の土壌統との関係

本統と同じグライ土群には鷹栖中央統と鷹栖統がある。鷹栖中央統端本統よりグライ層の出現位置が深いこと。また、鷹栖統は下層に植物遺体を含んでいる。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積（河成）

A-6 地形：低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	耕転の土性	(表土の粘性)	(表土の風乾度の硬さ)	湛水透水性	(作土下50cmの土性)	(//の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(//苦土)	(//カリ)	(//窒素)	(//珪酸)	(微量要素)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)	
t	d	g	p				l			r			w				f			n														
III	II	I	I	III	3	3	2	I	1	1	II	2	2	-	-	-	I	2	1	1	II	1	2	2	2	1	2	2	1	I	1	1	I	1
IIIpIItrn																																		

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

地下水位が周年にわたり作土直下にある。明暗渠の完備による地下水位の低下策を採ることが第一に必要である。生わらの施用は土壤還元をもたらすので避けること。ケイ酸資材の施用を行うこと。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

8. 鷹栖中央統

A-1 土壤統の特徴

鷹栖町市街地、北野市街地周辺に分布する細粒グライ土である。グライ層の出現位置は60cm前後と深くなる。土性は断面最下部では粗粒質となることもあるが、ほぼ全層にわたり細粒質で粘着性が強い。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.13 水田) 松倉甚作宅地先

T a C (13)	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
	0-18	灰色 2.5Y4/1	LiC	粒質	12	大	グライ 斑	湿	小
18-40	灰褐 2.5Y4/2	LiC	なし	18	大	なし	湿	小	
40-60	灰色 2.5Y7/2	LiC	大塊 弱	17	大	なし	湿	小	グライ層
60-80	青灰 2.5GY4/1	SL	なし	12	小	なし	湿	中	

(E 40)

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 18		4.2	18.2	35.2	42.4	LiC	2.78	89.9	
2	18 ~ 40		4.1	13.2	38.5	44.2	LiC	2.70	99.3	

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				3.79	0.28	13.0	6.5	5.1	4.2	9.4	1,483
2								5.2	4.3	10.1	1,643

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		遊離酸化鉄 %	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルガ法		
1	37.0	201	37	32	26.5	34.0		0.53	5.2	
2	40.8	217	47	17	25.5			0.61		

A-4 他の土壌統との関係

グライ土群には北野統、鷹栖統があるが、北野統は作土直下からグライ層が出現すること。鷹栖統は下部に植物遺体を含んでいることで本統と異なる。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積（河成）

A-6 地形：低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕(表土の粘性)	表土の粘着性	(表土の土性)	満水透水性	(表土の風乾度の硬さ)	(表土の粘性)	酸化還元性	(の最高ち密度)	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(苦土)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量元素)	酸度	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)		
t	d	g	p					l			r				w				f			n																
III	I	I	I	III	3	3	2	I	I	I	II	2	2	1					II	2	2	2	I	1	1	1	2	1	1	1	1	1	I	1	1	1	1	1
IIIpIIrf																																						

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

地下水位が高い土壌であり、地表水、地下水の排除のため暗渠（もみがら暗渠）、明渠の整備が必要である。生わらの施用は土壌還元をもたらすので堆肥化して施用すること。ケイ酸資材の施用につとめること。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

9. 鷹 栖 統

A-1 土壤統の特徴

鷹栖町内に広く分布するグライ土である。本統の特徴は下層部に泥炭を含むことである。土性は全層にわたって細粒質で粘着性が強い。作土下40～50cm以下は青灰色のグライ層となっている。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No. 5 水田) 那須野正男宅地先

Ta (5)	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
12	灰色	HC	粒質	12	大	糸根	湿	小	下層有機質グライ土
22	灰色 2.5Y4/2	HC	なし	18	大	糸根	湿	小	
45	青灰 7.5GY7/1	HC	大塊 弱	20	大	雲状 富む	湿	小	
65	青灰 7.5GY7/1	LiC	なし	18	大	なし	湿	小	
	灰褐 7.5YR2/2	LiC	なし	12	中	なし	潤	小	
(D31)									

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 12	3.6	3.2	7.5	32.0	57.4	HC			
2	12 ~ 22	4.1	0.8	4.1	31.8	63.2	HC			

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				3.69	0.28	13.0	6.4	4.9	3.9	13.3	1,570
2								5.1	3.7	21.6	1,270

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態の酸 (mg/100g)		遊離酸化鉄 %	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルガ法		
1	25.8	148	44	39	32.3		23.0		0.59	8.4
2	24.5	125	118	18	44.1		tr		0.90	

A-4 他の土壌統との関係

泥炭層が厚く集積した土壌統は藤野統（低位泥炭土）として区分した。本統は泥炭の集積量が少なくグライ土群に分類した。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：水積/集積

A-6 地形：低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾度の硬さ)	水透水性	(作下50cmの土性)	(の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量元素)	酸度	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)	
級	t	d	g	p				l		r				w				f			n																	
稲畑	III	I	I	I	III	3	3	2	I	I	I	II	2	2	2	-	-	-	II	2	2	3	I	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	IIIpIIrf																																					

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

地表水、地下水の排除につとめること。水田においては、生わらの施用は土壌還元をもたらすので避けること。ケイ酸資材の施用につとめること。酸性が強いので転換畑では十分な酸性矯正を行うこと。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清

10. 藤野統

A-1 土壤統の特徴

鷹栖町の中央部に存在する泥炭土である。表層部は泥炭が分解した腐植にすこぶる富む層がある。下層はヨシを主体とした分解良好の低位泥炭土である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.335-11 水田) 谷 光好宅地先

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
Fu (335-11)	灰色 2.5Y4/1	LiC	粒質	15	中	糸根	湿	中	泥炭土 (低位)
16 24	灰褐 10YR4/1	LiC	粒質	18	中	なし	湿	中	
(A1)	黄褐 2.5YR3/3 (泥炭)	LP	無構造	12	中	なし	潤	中	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 16	5.2	20.1	21.7	29.9	28.3	LiC	2,508	83.6	
2	16 ~ 24	5.6	17.4	19.4	32.8	30.5	LiC	2,285	79.6	
3	24 ~		泥炭層							

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				6.96	0.37	19.0	12.0	5.4	4.6	3.9	1,154
2				10.52	0.60	17.0	18.1	5.6	4.2	1.9	1,293

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		遊離酸化鉄 %	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	フレイ2	トルカ法		
1	35.1	350	98	42	51.9	64.0	11.0	0.65	7.2	
2	45.0	433	106	49	47.6	32.0	7.0	0.40		

A-4 他の土壌統との関係

鷹栖町内に設定した泥炭土は本統のみである。本町に隣接する旭川市東鷹栖地区にこの低位泥炭土の土壌統が連続して分布する。

A-5 母材：ヨシ

A-6 堆積様式：集積

A-6 地形：低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕転の難易	(表土の粘性)	(表土の風乾度の硬さ)	水透水性	(作上下50cmの土性)	(//の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿润度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊否	(置換性石灰含量)	(//苦土//)	(//カリ//)	(//リン//)	(//窒素//)	(//珪酸//)	(微量要素)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)		
級	t	d	g	p		l	r	w	f	n	i	a																									
III	I	I	I	II	3	1	III	3	3	III	3	3	2					I	1	2	2	I	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
IIIlrIIp																																					

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

作土に鈹質土が少ないところでは粘土客土が土壌改良の第一歩である。暗渠排水を完備すること。水稻に対してはケイ酸分が不足するのでこれの補給が不可欠である。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：道立上川農業試験場 山口正栄、木村清